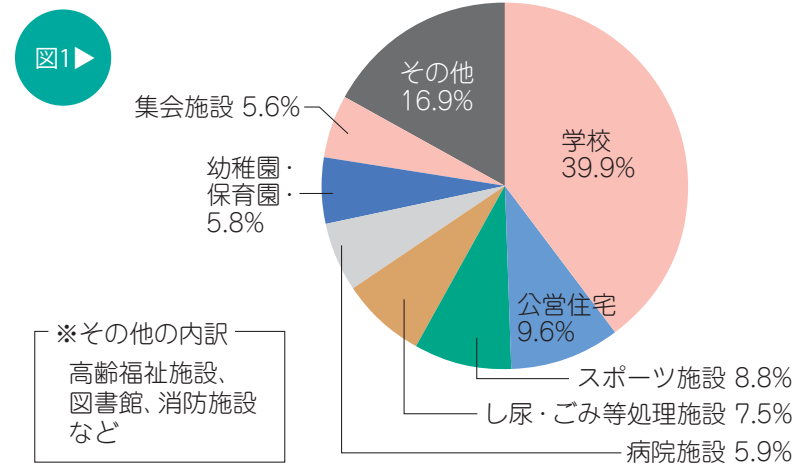


# 今の湖西から、未来の湖西を考える 公共施設白書

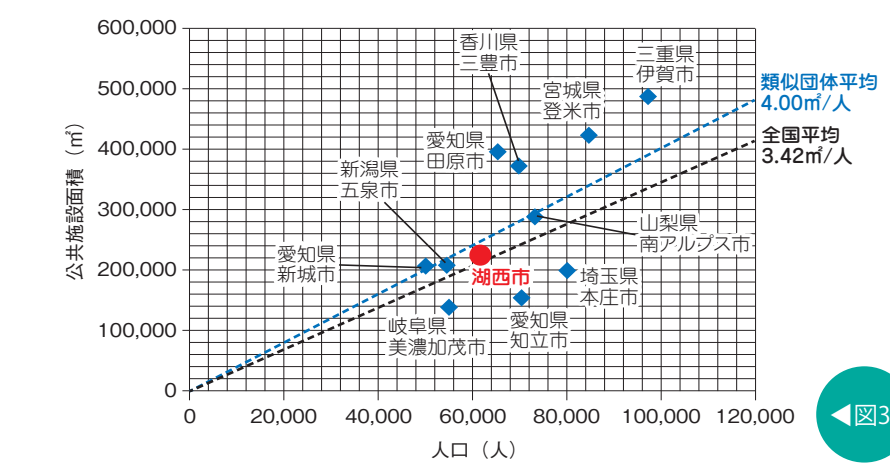
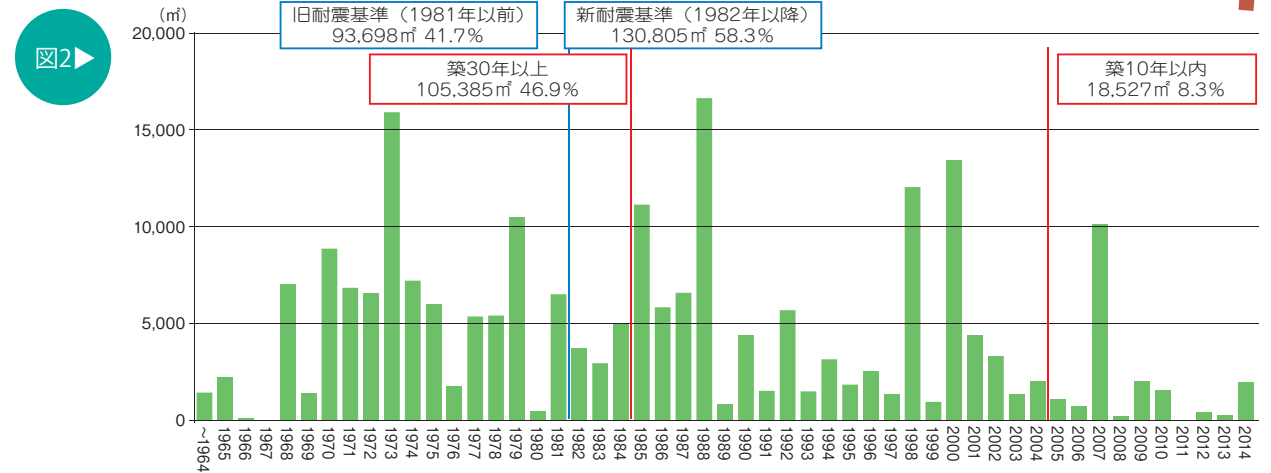
問合せ先  
企画政策課  
☎ 576-4521  
FAX 576-1139

全国的に戦後復興期〜高度成長期にかけて建設された公共施設（ハコモノ）の耐用年数が近づき、その更新費用を確保することが課題となっています。湖西市も例外ではなく、公共施設の現状と課題を整理し、公共施設の適正配置に向けた基本的な方針を検討する必要があります。今回、その基礎資料として「湖西市公共施設白書」を作成しました。



※その他の内訳  
高齢福祉施設、図書館、消防施設など

▼老朽化が進む施設  
築30年以上が46.9%！  
市が保有する「公共施設」は、108施設、延床面積は約22・4万㎡となっており、内訳としては、学校が最も大きい割合を占め、約4割を占めています。【図1】  
築年別整備状況を見ると、1960年代後半〜80年代にかけて多くの公共施設が整備されています。築30年以上を経過した公共施設の延床面積は、10万5385㎡で46・9%を占めており、老朽化が進んでいることがわかります。【図2】



▼ほかと比べてみると？  
市民一人当たりの公共施設延床面積は、人口規模や産業構造が似ている自治体の平均4・00㎡に対し、湖西市は3・67㎡と少ないものの、全国平均の3・42㎡より多く保有しています。【図3】

▼人口減少と少子高齢化  
人口構成が大きく変化

総人口は、2005年の6万994人をピークに減少し始め、2040年には4万8484人まで減少する見込みです。

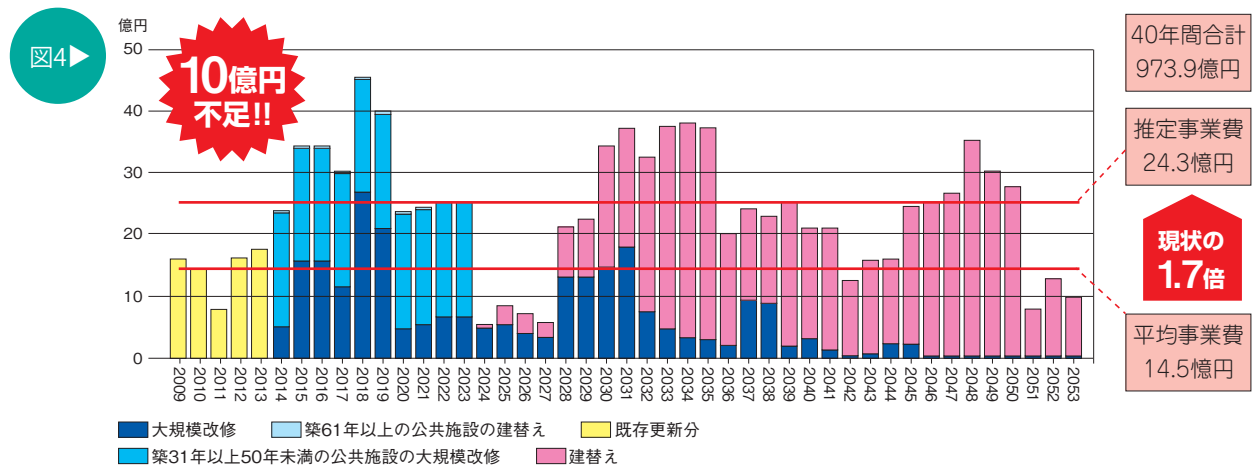
今後の人口減少、少子高齢化の進行によって、公共施設に求められる将来の需要が大きく変化していくことが予想され、公共施設を通じて提供している行政サービスの検討が必要です。

これからは人口減少の時代です。将来の人たちの負担にならないよう、公共施設のあり方を考えていかなければなりません。

人口の将来推計 (人)

年齢階級	2005年	2040年
総人口	60,994	48,484
年少人口(0～14歳)	8,844	4,926
生産年齢人口(15～64歳)	41,110	25,528
高齢人口(65歳以上)	11,040	18,030

国立社会保障・人口問題研究所、国勢調査のデータを基に作成



▼維持費用は今後40年間で  
973.9億円！  
年平均10億円の不足！

全ての公共施設を維持し、必要な改修や建て替えを行うと仮定した場合、今後40年間の合計で約973・9億円、年平均24・3億円の事業費が必要となる試算結果となりました。平成22年度から平成25年度までの公共施設の投資的経費の年平均14・5億円と比較すると、約1・7倍の事業費が必要であり、年平均10億円の予算不足が生じるようになります。【図4】

▼今後取り組むべき課題  
人口減少や少子高齢化など、「まちの姿」が変化していく中で、市民にとって身近な公共施設をどのように活用していくべきでしょうか。

公共施設を取り巻く現況と課題を見てみると、現在の厳しい財政運営が続くことが見込まれている中、全ての公共施設を今までと同様に維持管理していくことは、非常に困難な状況です。こうした課題に対応するため、公共施設の必要性を質と量の観点から見直し、公共施設の最適化を図るため、「公共施設マネジメント」の考え方が必要

▼公共施設白書（本編・概要版・漫画版）を閲覧できます  
市役所、新居地域センター、中央図書館、新居図書館、西部公民館、市ウェブサイトで閲覧できます。ご利用ください。

